

## 研究のねらい

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展するようになってきている。学校教育においては、激しく変化する社会を生き抜いていく子どもたちが、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して直面する課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして学びを新たな価値につなげていくことが求められている。

本校生徒の実態として、学校での生活や行事に意欲的に取り組み、素直で明るい姿が見られる。全校生徒に行ったアンケートからも9割の生徒が明るい学校生活を行っていると回答した。しかし、学習に目を向けると、学習の目的を明確に理解していると回答した生徒は、4割弱にとどまり、目的意識が希薄な生徒が多い。授業で学んだことが他の教科や学校行事、日常生活につながっていると感じている生徒も3割程度にとどまっている。また、自分の考えに自信をもてず、積極的に意見や考えを公表できない生徒も見られる。

このような生徒に対して、「自らの考えに自信をもたせたい」「学んだことをさらに日常生活や将来の生き方につなげてほしい」と願い、学習活動をしっかり振り返らせたり（気付く学び）、生徒同士の協働を通して自己の考えを広げて深めたり（広げる学び）、問題を見いだして自分の思いや考えを基に解決策を考えたり（つなげる学び）するなど、課題に対して自分なりの納得解や最適解を導き出し、自信をもたせるようにすることが必要であると考えた。

そこで、日々の授業に焦点を当て、教師が各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせた授業の改善を図ることにより、生徒は自分の考えに自信をもつことができると考えた。さらに、生徒自身が課題に気付き、考えを広げ、学びをつなぐ場を授業で意図的に設定し、「できたこと」や「分かったこと」をはっきりとさせていけば、学校での学習活動だけでなく、自己の日常生活にもつなげようとし、生涯にわたって主体的に学び続けることができると考え、本研究主題を設定した。

## 研究構想図



## 目指す生徒像

本校では、目指す生徒像を以下のように設定した。

### 目指す生徒像

『自分の考えに自信をもち、  
学びをつなごうとする生徒』

※ 「自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒」とは、授業や日常生活の中で、課題に直面したとき、様々な教科等で働かせてきた見方・考え方を組み合わせたり、関連付けたりするなどして、自分なりの納得解・最適解を導き出せるような生徒とした。

## 研究仮説

教師が各教科の特質に応じた見方・考え方を大切に、気付き、広げ、つながりを意識した授業を行えば、生徒は自分の考えに自信をもち、学びを他教科や日常生活につなげていくことができるだろう。

## 研究の組織

